

2011年度「専門特殊研究」研究会一覧

2011年9月24日
文学学術院

2011年度実施の専門特殊研究会は以下のとおりです。

「科目登録の手引き」も確認してください。

なお、本内容は講義要項には掲載されていませんので、ご了承ください。

【専門特殊研究について】

高度な原典講読や資料解読、数理系の問題演習など、少人数による上級者向けの研究会での成果を、学部での履修単位として認定するための科目です。

＜履修について＞

- 1科目2単位とし、合計8単位を上限に卒業必要単位に算入されます。
- 年間における登録制限単位数、科目数には算入しません。
- 同一の学期に2研究会(4単位)までの単位認定が可能です。
- 1年次の秋期・後期から、4年次の春期・前期まで履修することができます。
※未進級者は1年次の扱いになります。また、延長生は履修することはできません。
- 本研究会は科目登録の結果通知には反映されません。

＜成績について＞

- 学期終了後、一定の条件を満たした研究会において、十分な成果を収めた学生についてのみ、単位の認定を行います。
- 評価は次学期の初めに行われ、実際に参加した次の学期の単位となります。
- 合格の場合、成績証明書には、「専門特殊研究(副題)(担当教員名)(配当年度・配当学期)」と記載します。

★各研究会の内容に関するお問い合わせは、以下の担当教員まで直接お問い合わせください。

(以下、学期・曜日・時限・主題名五十音順)

学期	曜日	時限	実施曜日・時限の特記事項	担当教員
参加可能年次	主題			
研究概要				
使用文献				活動記録の内容、提出方法
受講者選考方法				備考

秋学期 **月** **2時限**

1年以上 **中国の伝統的死者儀礼—朱熹『家礼』(葬礼)をよむ** **森 由利亞**

中国文化の基礎である儒教儀礼について理解を深めることを目的とする授業です。南宋朱熹による『文公家礼』の「葬礼」を訓読しながら読解します。本書は近世の儒教士大夫が行うべき冠婚葬祭の規範をコンパクトに記しており、儒教儀礼の入門書としてまずうってつけの文献といえます。中国古典、中国文化、儒教、儀礼学(民俗学・文化人類学)等に興味のあるかたに受講をお勧めします。また、漢文読解の訓練にもなります。

朱熹『家礼』(『朱子全書』上海古籍・安徽教育出版社所収本)
(テキストはプリントで配布します。)

毎回の授業では、担当者は決めず、そのつどランダムにあてて訓読と現代語訳を行ってもらいます。そのため、毎回予習が必要です。

現代中国を履修していないくても受講できます。また、漢文のレベルがそれほど高くなくても、一緒に勉強するうちに力がついてきますので、安心して始めましょう。
評価は平常点に基づいて行います。

授業初日に簡単にガイダンスを行います。その時に教場である研究室(39号館4階2401)に来ていただければ結構です。提出書類などは必要有りません。

学期	曜日	時限	実施曜日・時限の特記事項
参加可能年次	主題	担当教員	
研究概要			
使用文献			活動記録の内容、提出方法
受講者選考方法			備考

秋学期 **月** **3時限**

1年以上 **ロシア文学の精読**

坂庭 淳史

ロシア・ソヴィエトの芸術・文化を理解するうえで、必ず読んでおかなければならぬ文学作品があります。しかし、これらについては、文学史・教科書的な知識はあっても実は読んだことがない、という人も少なくありません。また、通常の講義・演習で扱える数には限りがありますし、そうした作品を「ロシア・ソヴィエト文学とは何か」という大きなテーマのもとに包括的に論じる機会はありません。

この専門特殊研究では、ドストエフスキーやトルストイをはじめ、ロシア研究において必須とされる文学作品の中からより重要と思われる中編・短編小説を選び出し、毎回1つのテキストを精読・解説していきます（一部はロシア語で読みます）。あわせて作品の背景となる文化や歴史、さらにはロシアの美術やフォークロア、映画、現代文学などについても考察していきます。講義を通して、できるだけ多くの作品に触れながら、ロシアおよびロシア芸術・文化についてのたしかなイメージを構築することを目指しましょう。

受講者の希望もふまえて、適宜指示します。

それぞれのテキストについて担当者を決め、内容や注目すべき点、関連する基礎知識について発表してもらいます。他のメンバーにも基本的にテキストを通読してもらいまして、発表にもとづいてメンバー全員で検討していきます。成績は出席率や予習を含めた授業への参加度、学期末のレポートで評価します。

9月26日の初回授業で面談とオリエンテーションを行います。
受講希望者は9月25日までに坂庭(sakaniwa@waseda.jp)に
「受講希望」のメール連絡をしてください。

一定のロシア語力が必要です。ロシア文化・芸術をより深く理解したい、というかたに向いています。

秋学期 **火** **6時限**

1年以上 **ヒエログリフ資料講読**

近藤 二郎

古代エジプトで考案され使用されたヒエログリフ（エジプト聖刻文字）による資料の講読をおこなう。本授業では主として、中王国時代から新王国時代に使用された中エジプト語資料を使って講読を実施していく。ヒエログリフと言っても外国語学習と変わらないので、毎回の予習・復習をしっかりとすることが求められる。講読する資料としては、ヘテプ・ディ・ネスウトと呼ばれる定型の供養文をはじめ、中王国時代や新王国時代に繰り返し使われる文例を使用していく。特に今期は供養碑文、墓内碑文、そして木棺や彫像、シャブティ像などに刻された碑文を中心として扱っていく。また、ヒエログリフ碑文の中に頻出する神名、神名の修辞、地名（外国も含む）、称号なども繰り返し学習していく。ヒエログリフを読解し、読んで、書けることを目指してもらいたい。古代の文字資料を使用するためには、翻訳ではなく1次資料を取り扱うことが必須である。文字に慣れるとともに積極的に文字を使える姿勢を養うことを目標とする。また受講生には、中エジプト語のワードプロセッサーの使い方も学習する。

基本的には、独自のテキストを受講生に配布して使用する。参考文献は適宜紹介していく。

各自に当たながら、輪読形式で行う。

各回の授業内容に関して、活動記録として200字程度にまとめ、次回の授業までに提出すること。この活動記録が授業総回数の2/3以上提出されていることが単位修得の条件となる。

受講希望者は、事前に受講希望理由書を2000字程度で作成し shikondo@waseda.jp宛てに9月25日までに送信すること。受講生は5名程度を想定している。受講生には追って通知する。

学期	曜日	時限	実施曜日・時限の特記事項		
参加可能年次	主題	担当教員			
研究概要					
使用文献	活動記録の内容、提出方法				
受講者選考方法	備考				

秋学期	木	6時限
<u>1年以上</u>	和歌テクスト原典講読	兼築 信行

写本・版本により和歌に関するテクストを講読する。何を取り上げるかは受講者との相談により決定するが、過去には平安・鎌倉時代の歌集・歌合・百首・歌学書等を精読した。和歌に関する調査研究方法の基本から指導するので、全くの初心者であっても心配はない。大学院生や他学部の学生も参加している。なお本科目は、早稲田大学国文学会学生研究班「新古今研究会」としての活動である。

写本・版本の現物もしくは影印を複写し、無料で配布する。	担当者を決め、輪読形式で進める。小括として、各自の研究発表も行なう。各自の発表内容や資料のほか、輪読の際の議論への参加度も評価対象とする。受講者には毎回の活動内容についてのレビュー・シート提出を課す。2／3以上の出席が単位の要件。
-----------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

受講希望者は、和歌に関する具体的な関心を記したメールを knck@waseda.jp宛送信して申し込むこと。申し込みは9月末日まで受け付ける。担当教員から返信し面談等について連絡する。	和歌に関する資料展観への参観や、和歌文学会例会への参加を計画している。
----------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------

以 上